



キャリアパスフォーラム 第2弾



— 海外の日本語教育現場（アジア編） —

このキャリアパスフォーラムは、将来日本語教育にかかわりたい方や、現在日本語教育に関わっていても違う分野にチャレンジしたい方に向けて、日本語教育業界の多様な現場をよく知ってもらうためのイベントです。

キャリアパスフォーラム第2弾は海外の日本語教育現場（アジア編）です。将来、海外で日本語を教えてみたい、海外でのキャリアを積んでみたいと思われている方も多いのではないのでしょうか。

キャリアパスフォーラムへの参加を通して、海外の現場を知り、将来のキャリアを考えてみませんか。

日 時：2022年2月5日（土）14：00～16：00（日本時間）

会 場：Web 会議システム Zoom を用いたオンライン開催

参加費：500 円（会員・非会員問わず）

※中高生・大学学部生は参加費無料

定 員：100 名（要事前申込・定員になり次第締切）

対 象：キャリアとして海外の日本語教育を知りたい方

将来、海外の日本語教育に関連する機関で働くことに興味を持っている方
キャリアパスとして、次のステップに進みたいと考えている方

申込方法：日本語教育学会 HP (<http://www.nkg.or.jp/>) の「[マイページ](#)」から
事前申し込み。[非会員の方もマイページ登録をしての申し込み](#)となります。

※中高生・大学学部生は[こちら](#)に必要事項を記入し、在学中であることが
わかる書類（学生証の写真等）をご提出ください。

申込締切：1 月 27 日（木）正午

そ の 他：Zoom を利用するための事前準備や接続方法等については、
後日、申込者に対してご案内いたします。

主催：公益社団法人日本語教育学会（担当：チャレンジ支援委員会）



↑日本語教育学会 HP



↑中高生・大学学部生用
申込フォーム

**協力機関：国際協力機構(JICA)青年海外協力隊事務局、国際交流基金アジアセンター
新モンゴル小中高一貫学校、ハノイ日本語教育研究会**

14：00～14：10 挨拶・趣旨説明・海外の日本語教育事情

14：10～15：10 協力機関による海外での日本語教育についての説明（各 15 分×4 機関）

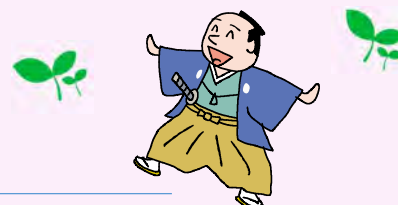
(1) 各機関担当者による海外の日本語教育事情及び事業についての説明
(2) 日本語教師による現地での仕事内容についての説明 ※裏面参照

15：10～15：15 休憩

15：15～15：25 共通する質問への回答

15：25～15：55 車座タイム（15:40～フリータイム）

15：55～16：00 まとめ



問合先：公益社団法人日本語教育学会（チャレンジ支援委員会）

TEL：03-3262-4291（9～18 時のみ）

E-mail：challenge@nkg.or.jp

協力機関からの一言

国際協力機構(JICA)青年海外協力隊事務局 <https://www.jica.go.jp/volunteer/index.html>

JICA 海外協力隊は開発途上国からの要請に基づいて派遣され、さまざまな分野で現地の人々と共にその国の課題解決に取り組みます。これまでに70か国に3,200人以上の日本語教育隊員が派遣されており、アジアへの派遣は約40%を占めます。日本語教育隊員は、中学校・高校、大学、専門学校・職業訓練校などで、日本語の授業、日本語関連イベントの実施、現地教師の日本語運用能力や指導技術の向上への協力をしています。

・甲藤 瞳 (JICA 海外協力隊 2019年度2次隊/ラオス/日本語教育)

2019年12月、サワンナケート大学言語学部日本語学科に派遣され、コロナ禍による一時帰国を経て、2021年12月まで、日本語教育隊員として活動しました。設立後3、4年目の日本語学科で、学生の日本語力向上、同僚教員の教授力および日本語力向上、カリキュラムの改善に取り組みました。対面授業ができない期間もあり、オンラインで授業や活動を継続しました。その他、同僚教員と協働で卒論指導や教師研修を行いました。



独立行政法人 国際交流基金(JF)アジアセンター <https://jfac.jp/>

独立行政法人国際交流基金(JF)は、世界の全地域において、総合的に国際文化交流事業を実施する日本で唯一の専門機関です。2014年4月にJF内に新設されたアジアセンターは、アジアで日本語を教える教師や生徒のパートナーとして、授業のアシスタントや日本文化の紹介を行う「日本語パートナーズ」を現地の中学校や高校等に派遣しています。応募の際は日本語教育の専門知識や教授経験は問いません。今回は、事業概要と参加後のキャリアパスの一例をご紹介します。

・村上 奈未 (2015~2016年 日本語パートナーズ、2018~2020年 日本語指導助手、2020年~現在 日本語専門家)

「海外の日本語教育を自分の目で見てみたい」— そんな気持ちで、大学院生の時に日本語パートナーズ(NP)に参加しました。インドネシアでのNP活動を通して、日々真剣に日本語教育に向き合う現地の先生方に出会い、共に現場の日本語教育をより良くしていきたいという思いから日本語専門家を志しました。帰国後、フィリピンでの日本語指導助手を経て、現在は日本語専門家としてインドネシアの中等教育支援を担当しています。



新モンゴル小中高一貫学校 <https://new.shinemongol.edu.mn/>

機関についての説明文→新モンゴル学校は2000年10月5日に設立されたモンゴル初の日本式学校であります。生徒数は1500名、教職員数は150名ほどおり、中学1年生から日本語を教えています。卒業生2286名のうち、504名が日本へ留学するほど日本に憧れています。日本語教育をさらに強化するために毎年、高校生と卒業生を対象に日本語夏期講習(サマースクール)を実施しています。

・中村綾子 (2011~2021年度 新モンゴル小中高一貫学校 日本語教師)

自己紹介文→はじめまして。新モンゴル小中高一貫学校にて、中学生へ日本語を教えています。当校は、日本式学校なので、私にとってどこか懐かしさを感じる場所でもあります。生徒はとても明るく、先生にも気兼ねなく話してくれるので、新任の先生も馴染みやすい校風です。長年働いてよかったと思うことは、「日本へ留学して卒業しました」、「日本の企業ではたらくことになりました」と会いに来てくれる時です。



ハノイ日本語教育研究会 <https://hanoiinhongokyoiku.wixsite.com/mysite-1>

ハノイ日本語教育研究会は、ベトナムにおける日本語教育の発展のために発足した団体です。現在、ベトナムには、とりわけハノイにおいては、数多くの日本語学習者があり、日本に進出する学習者も増加の一途をたどっています。そのような背景の中、日本へ行く目的は様々であり、語学留学、進学、研修、出張、出向など多岐にわたっています。ハノイ日本語教育研究会の目的は、そのようなベトナム人学習者への日本語教育に対し、参加者の国籍を問わず、意見を出し合い、研究し、そして学び合い、各教育機関の日本語教育の発展につなげ、ハノイにおける日本語教育の発展に貢献することです。ベトナムの日本語教育に興味がある方であれば、ベトナム国内外を問わずどなたでもご参加頂けます。

・小西 達也 (2018~2021年度 ベトナム・ハイフォン大学 日本語教師)

ベトナムの地方都市ハイフォン市の大学で日本語教員として、現地の先生方、ハイフォン市の関係者と協力しながら、ハイフォンの日本語教育を活性化し、ハイフォンの発展に貢献できるように一丸となって努力しております。ハイフォンには、ネイティブの日本語教師は多くありません。そのような環境で孤立しないようにハノイ日本語教育研究会にも所属しています。

